

# 付着生物ラーバ情報

## 1 ラーバ等の出現と付着状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

### (1) ユレイボヤ(通称:ハナ)、オベリア類(通称:クサ)

ラーバやクラゲは見られていませんが(図2、図3)、オベリア類は平成30年1月5日から2月2日まで久栗坂沖と川内沖で実施した付着基質調査で見られました。

### (2) キヌマトイガイ(通称:コメガキ)

ラーバは蟹田沖で1.4個体/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で346.7個体/m<sup>3</sup>、川内沖で788.3個体/m<sup>3</sup>見られました(図4)。また、上記の久栗坂沖と川内沖で実施した付着基質調査でも見られました。

### (3) アミクサ(通称:クサ)

小枝は見られていませんが、上記の久栗坂沖における付着基質調査で見られました(図5)。

### (4) マボヤ

ラーバは久栗坂沖で0.6個体/m<sup>3</sup>見られましたが、卵は見られていません(図6)。

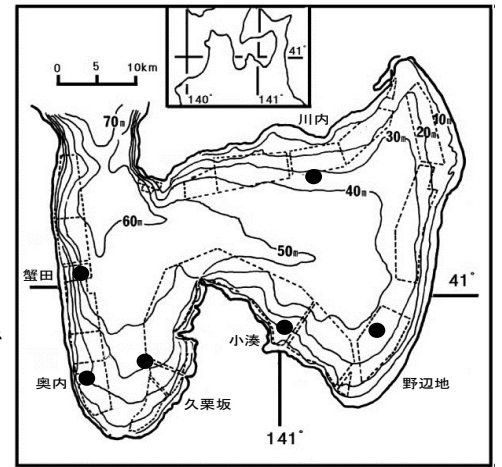


図1 ラーバ調査地点

## 2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温は2~8℃台に低下しています。

**ユレイボヤ**のラーバは、今回も見られておらず、久栗坂沖の累積ラーバ数は1.2個体/m<sup>3</sup>と低い値に留まっているので、**今春の出荷時には大型個体の付着は少ない**と思われます。

**キヌマトイガイ**は、ラーバ出現数が増加してきたことから、**籠や耳吊り、マボヤ採苗器への付着が増加**すると思われます。

**マボヤ**のラーバは、9℃以下になると活性が低下し、泳げなくなることが分かっています。また、今回ラーバもほとんど見られていないので、**付着は終了**したと思われます。

**これから春にかけてアミクサ小枝とオベリア類のクラゲが出現**すると思われます。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	単位:個体/m <sup>3</sup>					
		ユレイボヤ	ザラボヤ	マボヤ	キヌマトイガイ	オベリア類 クラゲ	アミクサ 小枝
蟹田沖	H30.1.29	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0
久栗坂沖	H30.2.2	0.0	0.6	0.6	346.7	0.0	0.0
川内沖	H30.2.2	0.0	0.0	0.0	788.3	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

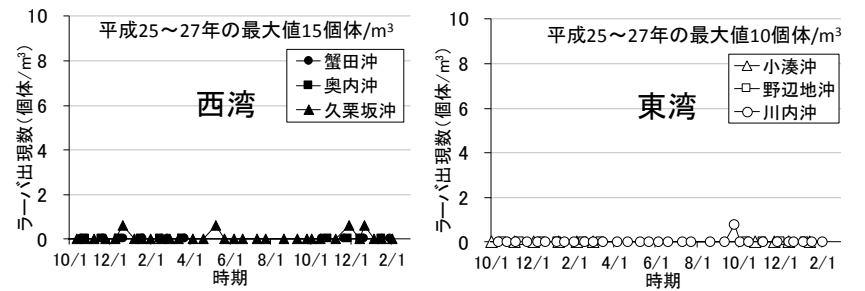


図2 ユレイボヤ出現数の推移(平成28年10月~平成30年2月)

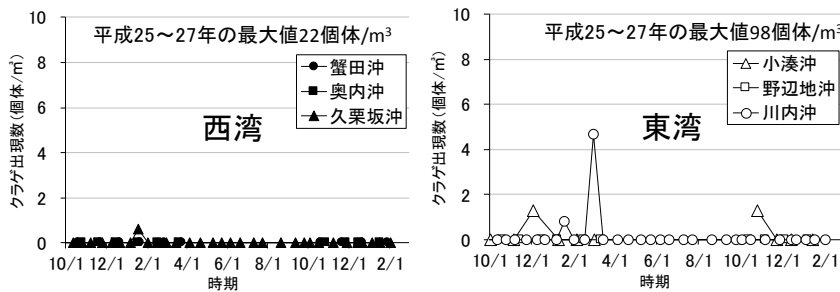


図3 オベリア類クラゲ出現数の推移(平成28年10月~平成30年2月)

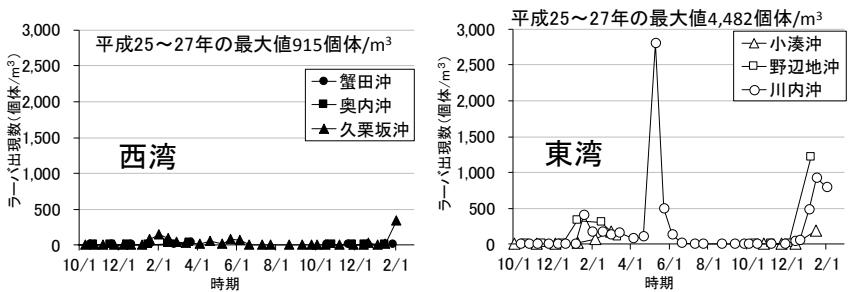


図4 キヌマトイガイ出現数の推移(平成28年10月~平成30年2月)

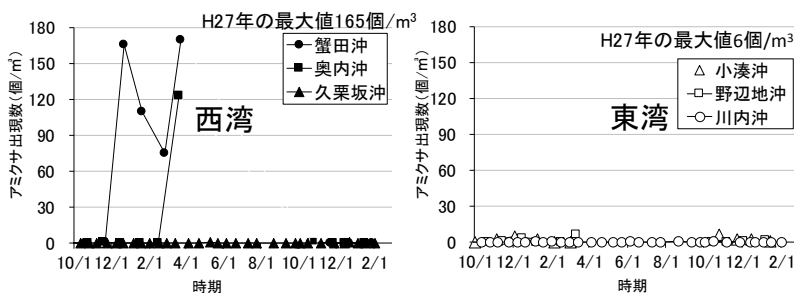


図5 アミクサ小枝出現数の推移(平成28年10月~平成30年2月)

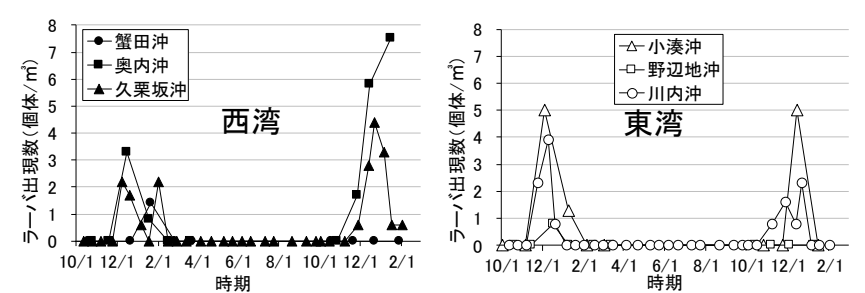


図6 マボヤラーバ出現数の推移(平成28年10月~平成30年2月)

発行元: 地方独立行政法人

青森県産業技術センター 水産総合研究所

住所: 青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10

TEL: 017-755-2155 FAX: 017-755-2156

水産総合研究所ホームページURL: <http://www.aomori-itc.or.jp/index.php?id=2184>

id=2184

ホタテガイ採苗速報 携帯電話用QRコード (①)

海ナビ@あおもり 全モバイル端末共用QRコード (②)

